

応急手当

止血の方法

1. 止血の重要性

人間の全血液量は、成人で体重の約8% (60Kgの人で約5ℓ)あります。全血液量の20% (60Kgの人で約1ℓ)が急速に失われると体に様々な変化を及ぼします。そして、**50~60%が失われると生命に危険**が生じるため、止血は迅速かつ効果的な止血を行うことが必要になってきます。

そのため、とくに出血が多く見られるときは、注意が必要です。ここでは、最も簡単に出来る直接圧迫止血を紹介します。正しい止血法を習得しておきましょう。

2. 止血の方法

まず、①出血している部位の確認、②どのような出血をしているか？(静脈性 or 動脈性 注1)

※注	静脈性はひざをすりむいた時のように「じわっと」出てくるような出血。動脈性は吹き出して出てくるような出血。
----	--

以上のことを確認し止血をはじめましょう。  
止血の方法には、迅速、確実、効果的に出来る直接圧迫止血が効果的です。

直接圧迫止血

直接圧迫止血 (止血を行う上での基本)

A: 手指による直接圧迫

出血している傷を完全に覆う大きさのガーゼや清潔なタオルなどを用意し傷の上から直接あて、その上から手指で強く圧迫する。

※注	ガーゼ等から血が垂れて来る場合は、新しいガーゼと交換し正しい圧迫位置で再度止血を試みる。
----	--

B: 包帯などによる圧迫

出血している部分にガーゼ等を当てその上から包帯、三角巾若しくは太い帯状もので止血する。(強くしすぎない。)

※タオルやガーゼ等で直接圧迫します。出血がひどい時は直接血液に触れないようにビニール袋等を使いましょう。

